

553.43/.44 : 550.85(521.75) : 622.343/ .344

兵庫県旭出鉾山・黒台尾鉾山銅鉾床調査報告

本調査は昭和28年3月9日より18日間にわたって行つたものである。

(1) 旭鉾山

鉾業者 植田鉾業株式会社

鉾区番号 兵庫県採登第178号

旭鉾山は兵庫県養父郡西谷村中間にあり、山陰線八鹿駅より西方バスで大屋市場を経由西谷村筏に至り、これより北西方3.5kmで鉾山現場に至る。この間中間まで1.5kmはトラックを通ずる。

当地域にはいわゆる夜久野塩基性岩類が広く発達し、一部にこれを貫ぬいて石英粗面岩が岩脈あるいは熔岩流をなして分布している。

鉾床は塩基性岩を母岩とし、その断層裂隙を充填した銅・鉛・亜鉛石英脈であつて、延長250m傾斜方向に150m以上あるものと考えられる(走向N80°W、傾斜50~70°W)。脈幅は最大20m、平均1mであつて高品位部は数カ所に芋状に発達している。

採掘可能部の平均見込品位はCu 1%、Pb+Zn 10~15%である。現在なお未採掘部もあり、相当量の残鉾を有するが、含銅品位がやや低いらいがある。

報告書内容は下記の通りである。

(1) 位置および交通 (2) 地形 (3) 地質 (4) 鉾床

4.1) 鉾床の形態 4.2) 分布 4.3) 成因考察 (5) 品位 (6) 鉾量 (7) 結論 (8) 沿革および現況 附図4葉。

(2) 黒台尾鉾山

鉾業者 横田一男

鉾区番号 兵庫県採登第5,829号

黒台尾鉾山は兵庫県養父郡西谷村横行にあり、前記旭鉾山の西方直距離約4km、標高800m前後のところにある。

当地域には古生層ホルンフェルスとこれを貫ぬいている黒雲母花崗岩および石英粗面岩が分布している。

鉾床は古生層ホルンフェルスの片理に沿つてこれを交代した銅、硫化鉄鉾石英脈であつて、坑内の採掘跡から考えると富鉾部は、円盤状をなしていたものようである。富鉾部は採掘済みで試料を採取し得なかつたが、坑外貯鉾で見ると黄鉄鉾中に密に挾雑する黄銅鉾であつて、含銅見込品位は、5~8%である。

報告書内容は下記の通りである。

(1) 位置および交通 (2) 地形 (3) 地質 (4) 鉾床 (5) 品位 (6) 結論 (7) 沿革および現況 附図2葉。

(調査: 清島信之, 抄録: 東郷)

553.612 : 550.85(521.75) : 622.361.2

兵庫県福山鉾山(蠟石・明礬石)調査報告

福山鉾山は兵庫県神崎郡粟賀村にあり、附近の地質は第三紀中新世に属すると思われる各種の石英粗面岩からなる。鉾床は石英粗面岩を交代する含ダイアスポア・明礬石蠟石鉾床である。

北方より、東山・榎木・八幡・堂山・桜揚の各鉾床群が知られており、堂山鉾床群はさらに、西より、大西・中西・大坑の各鉾体に分かれ、採掘の中心となつている。

堂山鉾床は粘土化(青盤下、黒盤化を含む)された母岩中であつて、含ダイアスポア蠟石帯と、含明礬石蠟石帯に分れている。母岩の変質作用としては、珪化、蠟石

化、黒盤化(硫化鉄鉾染珪化帯)、赤盤化(赤鉄鉾染珪化帯)等がみられ、珪化作用は鉾床の最外側を占め、最も広範囲である。

地質構造と鉾床との関係から、変質帯構造線(N~S—NW~SE)に直交する張力裂隙を充填して、鉾体(E~W)が生成されたものと考えられる。採鉾の方針としては、堂山鉾床群における、高品位含ダイアスポア蠟石帯を早急に採鉾すべきであり、また、周辺調査をさらに北方に進めて、東山鉾床群を解明する必要がある。

(北 卓 治)

553.612 : 550.85(521.62)

愛知県七郷村巢山に見出された蠟石鉱床

1. 緒 言

5万分の1地質図幅三河大野の調査に関連して、愛知県八名郡七郷村巢山の北北東に蠟石が賦存するのに気付いた。いままでのところでは、実用価値の疑われる程度のものであるが、広くこの地方では蠟石鉱床はまったく知られていなかったため、一応報告しておく。

2. 交 通

巢山は国鉄飯田線の三河大野駅の東方数kmにあり、(第1図 参照) この間に2つの自動車道があるが、常設の交通機関はない。道路のうち、細川を經由するものは巢山の西に急坂があつてやゝ不良であるので、貨物自動車の通行には阿寺を迂回する道路の方がよい。巢山から鉱床の近くまで約1kmは馬車道だけであるが、平坦である。

3. 地 質

この附近の地質の概要を第1図に示す。

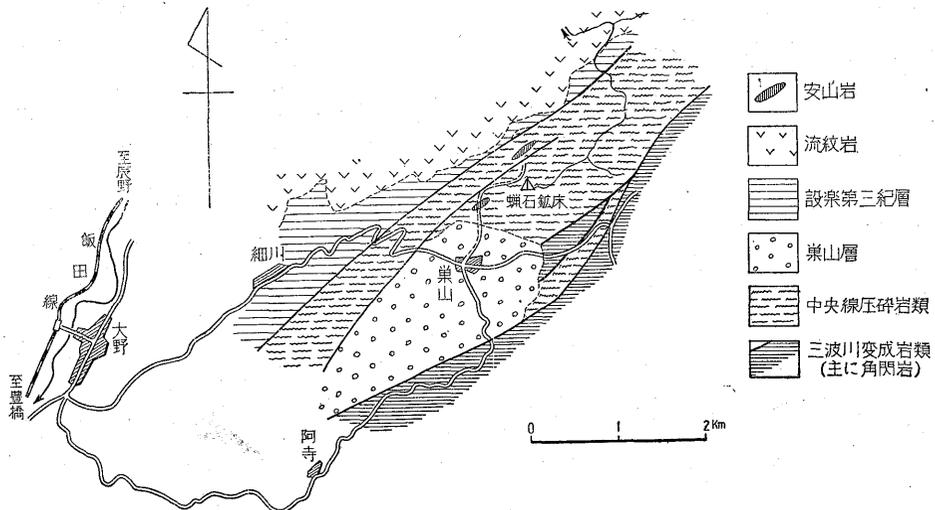
この附近には中央構造線が走り、この構造線によつて生じた圧砕帯が1km以上の幅をもつて露出する。圧砕帯にみられる岩石のうち、鉱床附近には花崗岩質ないし石英閃緑岩質の岩石で、片麻岩状ないしミローナイト質

の破碎構造を示すものが分布する。元の成分鉱物のうち石英以外のものは、分解して絹雲母・緑泥石などに変つていくことが多く、岩石は緑色を帯びることが多い。

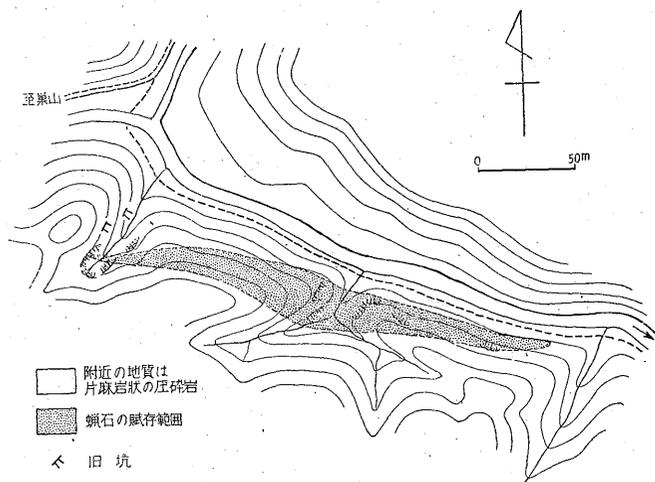
圧砕帯の南には三波川変成岩類のうち角閃岩を主とする部分が、また北には設楽第三紀層ならびにこれを覆う設楽火山岩類の流紋岩が分布し、それぞれ圧砕作用よりもはるかに後に生じた断層をもつて圧砕帯と接する。圧砕帯のなかには、設楽火山岩類のうち、後期に噴出したことがわかっている安山岩が、岩脈として貫入する所がある。なお、巢山附近には、堅く膠結された礫岩からほとんどまつたく構成され、古い河成堆積物とみなされる巢山層があり、圧砕帯の上に不整合に載っている。

4. 鉱床および鉱石

鉱床附近の見取図を第2図に示す。鉱床は片麻岩状を呈する圧砕岩を母岩とし、延長約200m、幅平均10数m、比高20m以下の範囲内に露出し不規則な網状脈あるいは鉱染体をなして部分的に賦存する。鉱石は母岩・珪質部・褐鉄鉱などを含んで、きわめて不均質であり、また母岩の圧砕構造を残して角粒状を呈して脆い。良質の鉱石は白色を呈し、蠟触感をもつてやゝ軟らかく、鏡下では石英粒の間が葉蠟石もしくは絹雲母に当る光学性を示



第1図 巢山蠟石鉱床附近の交通および地質概要図



第2図 巢山蠟石鉞床見取図

す鱗状微晶の集合物が充されている様子を示す。ほぼ純白な良質鉞を分析した結果を次に記す。

SiO ₂	84.09	MgO	0.19	計	100.19
TiO ₂	0.11	Na ₂ O	0.16		
Al ₂ O ₃	12.31	K ₂ O	0.62		
Fe ₂ O ₃	0.08	Ig.loss	2.62		

(分析—
地質調査所
関根節郎技官)

アルミナが多い割合にはアルカリが少ないので、上述の鱗状微晶の大部分は葉蠟石であろうと判断される。

分析に供したと同一標本につき、名古屋市にある共立原料株式会社に一応の使用試験を依頼したところSK13の還元焙焼成の結果、大体白く焼ける。耐火度はSK

553.311 : 550.85(521.758)

兵庫県淡路島塩田村含チタン砂鉄鉞床概査報告

淡路島の東岸塩田村附近には領家 Complex に属する片状花崗岩が発達し、特に塩尾—平安浦間の小丘にはこれを貫ぬく紫蘇輝石斑岩岩脈およびアプライト岩脈が発達している。

片状花崗岩は石英・正長石・曹灰長石・角閃石・黒雲母を主成分とし、磁鉄鉞・燐灰石・榭石・ゲルコンを副

553.612 : 550.85(521.85)

山口県佐波郡滑地区蠟石鉞床調査報告

本鉞山は山口県佐波郡柚野村滑にあり、滑石鉞床は、標高 400~800mの間に東西ほゞ 3 kmに亘つて分布している。

附近の地質は地域北部に古生層が狭小な地域を占めるほかは石英粗面岩(石英斑岩を含む)および玢岩が広く

30強である。耐火物としては耐火度不十分であるが、陶磁器素地用としては研究の余地がある」との文意の通知註¹⁾に接した。鉞床の附近には銅を目的に探鉞したと伝えられる旧坑があるが、緑色を呈する圧碎岩中を掘込んでいて、そこには金属鉞物は認められない。

巢山から北約 500 m、鉞体に至る馬道の左側に、貧弱な蠟石鉞床が安山岩の小岩脈によつて貫ぬかれている露頭がある。この地方の蠟石化作用は安山岩の出現以前に行われたものであつて、西方の南設楽郡鳳来寺村にある鳳来寺陶石は、安山岩が変質して生じたものであるが、これとは関係のない作用といえる。

5. 将来性

この蠟石は新たに気付かれたものであつて、未だ利用されていない。化学分析および使用試験に供した程度の良質鉞は量が多くない。陶磁器素地用としては品質の揃つたものが得難く、かつあまりにも少量であろう。

なお、同様な蠟石は、巢山から西へ細川附近に至る中央線圧碎帯の処々に転石として見られるので、調査をすればさらに鉞体をみいだす可能性はある。

(調査: 齊藤 正次)

成分とする。紫蘇輝石・斑岩は灰曹長石・紫蘇輝石を主成分とし、チタン鉄鉞・磁鉄鉞を副成分とする。

前者起源の砂鉄は移行価値がない。

後者起源の含チタン砂鉄は岩脈が小規模のため、海岸における堆積量が僅少であり、これも移行は望めない。

(調査: 原口九万, 抄録: 金属課)

分布する。

石英粗面岩は当地域蠟石鉞床の母岩をなしているものであつて、流状構造に富みまた節理が発達している。

註1) 共立原料株式会社の蜂須賀榮治氏の書信

鉱床は東西約 3 km に亘つて 4 鉱体が知られており層状あるいは板状をなして石英粗面岩中に産する。これらの鉱体はカオリン質蠟石からなっており、規模は相当大であるが品質に著しい変化があつて、一般に珪酸に富み、耐火度は最高 SK 35 番を示すものもあるが、多くは 30 番前後である。

現在日本耐火工業株式会社に属しているが 昭和 25 年

秋の風水害以来休山中である。

報告書内容は下記の通りである。

- (1) 緒言 (2) 位置および交通 (3) 地形 (4) 地質 (5) 鉱床 (イ) 旧採掘鉱体 (ロ) 東露頭鉱体 (ハ) 鈴ヶ谷露頭鉱体 (ニ) 鬼ヶ河内露頭鉱体 (6) 品質 (7) 鉱量 (8) 結論 (9) 現況 附図 5 葉。

(調査：清島信之、抄録：東郷)

553.44 : 550.85(521.85)

山口県佐波郡中部地区銅・鉛・亜鉛鉱床群について

調査した鉱山は下記の通りである。

鉱山名	所在地	鉱種	品位	母岩
北野 鉱山	出雲村北野	銅	0.17%	黒雲母花崗岩
茂知木 鉱山	茂知木	亜鉛	6.48%	"
八坂 鉱山	八坂村神原	銅	見込品位 1~3%	山口層群, 粘板岩
足谷 鉱山	"	"	2.54%	角閃石安山岩
河平 旧坑	出雲村河平	"	3.25%	山口層群, 粘板岩
引谷 鉱山	八坂村川口	"	1.78%	微花崗岩
銅谷 鉱山	引谷	"	見込品位 2~3%	"

北野鉱山が残鉱部の排水および下部探鉱を小規模に行っているほかはすべて休山中のものであつて、局部的に高品位部もあるが、鉱床規模はきわめて貧弱で現在のところ稼行価値に乏しい。

報告書内容は下記の通りである。

- (1) 総論 (2) 各説 (イ) 北野鉱山 (ロ) 茂知木鉱山 (ハ) 八坂鉱山 (ニ) 足谷鉱山 (ホ) 河平旧坑 (ヘ) 引谷鉱山

(ト) 銅谷鉱山 附図 3 葉。

これらは花崗岩・粘板岩あるいは安山岩を母岩とした交代鉱床で、いずれも母岩の節理に沿つて脈状、レンズ状をなして賦存している。

(調査：清島信之、抄録：東郷)

553.46 : 550.85(521.85)

山口市秋穂地区タングステン鉱床調査報告

本地域のタングステン鉱床は日本タングステン株式会社山口鉱業所によつて稼行されており、昭和 25 年度には精鉱約 50 kg を搬出した。

鉱床は中国地方に広く発達する黒雲母花崗岩を母岩とし、この節理あるいは断層を充填した高温性石英脈で、母岩は珪化作用、グライゼン化作用を蒙っている。

鉱石鉱物には鉄燐重石の他輝水鉛鉱・硫砒鉄鉱・黄鉄鉱を随伴している。

鉱脈は多数賦存しているが、主要なものは光脈、八尺脈・幸脈であるが、いずれも 1 つ 1 つの鉱脈はきわめて

狭小なものであるが、多数の平行脈が集つて鉱脈帯を形成しており、例えば光脈一八尺脈については鉱脈帯として 20 m の幅を有し、この中に約 20 本の平行石英脈があり、この帯の延長は約 700 m におよび深さ 100 m まで知られている。

報告書内容は下記の通りである。

- (1) 緒論 (2) 要約 (3) 位置・交通 (4) 地質 (5) 鉱床 (6) 結論 (7) 沿革・現況 附図 1 葉。

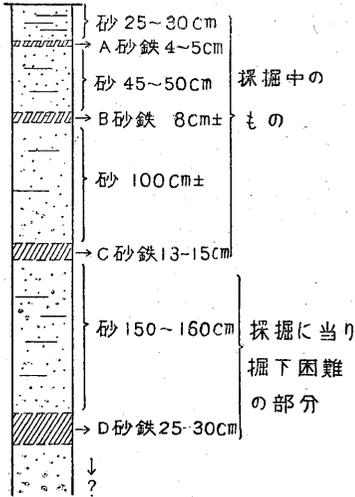
(調査：清島信之、抄録：東郷)

553.3 : 550.85(522.6)

大分県国東半島の砂鉄鉱床分布状況報告

昭和 28 年 7 月大分県国東半島の砂鉄鉱床の分布状況を調査した。本地域の砂鉄鉱床は鶴川町を中心として南

北約 25 km の海浜に分布している。稼行の最も盛んな所は鶴川町～古市附近で、出鉱量も多い。鶴川町を中心に



南北に距たるに従つて砂鉄層は薄くなる。採掘区域は概して汀線より砂丘へ約 50~60m の間である。平均品位は Fe 20~30%と推定され、移行の対象となる。古市より南部には特に柱状図に示すような砂鉄層はなく、地表より 2m前後の下部までの間に賦存する 3~15cm 土の砂鉄層を採掘している。台風等による気象の変化により不定期に砂鉄の堆積が行われている。本地域の砂鉄中にはチタンの含有量が少ない。

(調査：原田種成，抄録：宮本)

月報 5 卷 11 号 正 誤

頁	誤	正
8	第2図 新橋ダム地点堰堤平面、横断およびその地質図	第2図 川辺川五木ダム予定地附近地形および地質図
9	第3図 川辺川五木ダム予定地附近地形および地質図	第3図 新橋ダム地点堰堤平面、横断およびその地質図